

市と市民が協働により進める「小学校区まちづくり協議会」

白井市では、生活に身近な小学校区域で、市民が主役となってお互いに協力・連携し、地域課題の解決や魅力づくりに取り組む、「小学校区まちづくり協議会」の設立・運営を推進しています。

今とこれからの課題

働く世代の減・85歳以上人口の急増

- 市 85歳以上人口が10年後に約2倍に増加
2024年 2,323人*→2035年 推計4,933人**
- 市 働く世代は10年後に約10%減少
2024年 37,057人*→2035年 推計約33,547人**

大規模災害発生リスクへの備え

- 国 今後30年間に70%の確率で首都直下地震
- 国 気候変動・激甚化する豪雨災害や台風

地域の交流・支えあい機能強化の必要性

- 市 看病や世話をしてくれる人が「いない」
高齢者 2014年 4.1%** → 2023年 5.8%**
※2023年要介護認定のない回答者1,887人中109人
- 国 隣近所「形式的つきあい」増・孤独感増加***

各団体・組織の構成員の減少・高齢化

- 市 自治会加入率の低下・市民活動団体の解散
- 市 会員の高齢化による活動の停滞

市：白井市の課題 国：白井市を含む全国的な課題
*2024.3 末時点 白井市住民基本台帳より

**第6期・第9期白井市高齢者福祉計画・介護保険事業計画より
***令和5年版厚生労働白書より

共に目指したい姿

▶支援が必要になっても、誰もが
住み慣れた地域で、孤立せず
安心して暮らすことができる。

暮らし
交流

災害
犯罪

▶犯罪の被害にあわず、大災害
が起きても、命が守られ、安心
感のある暮らしを再開できる。

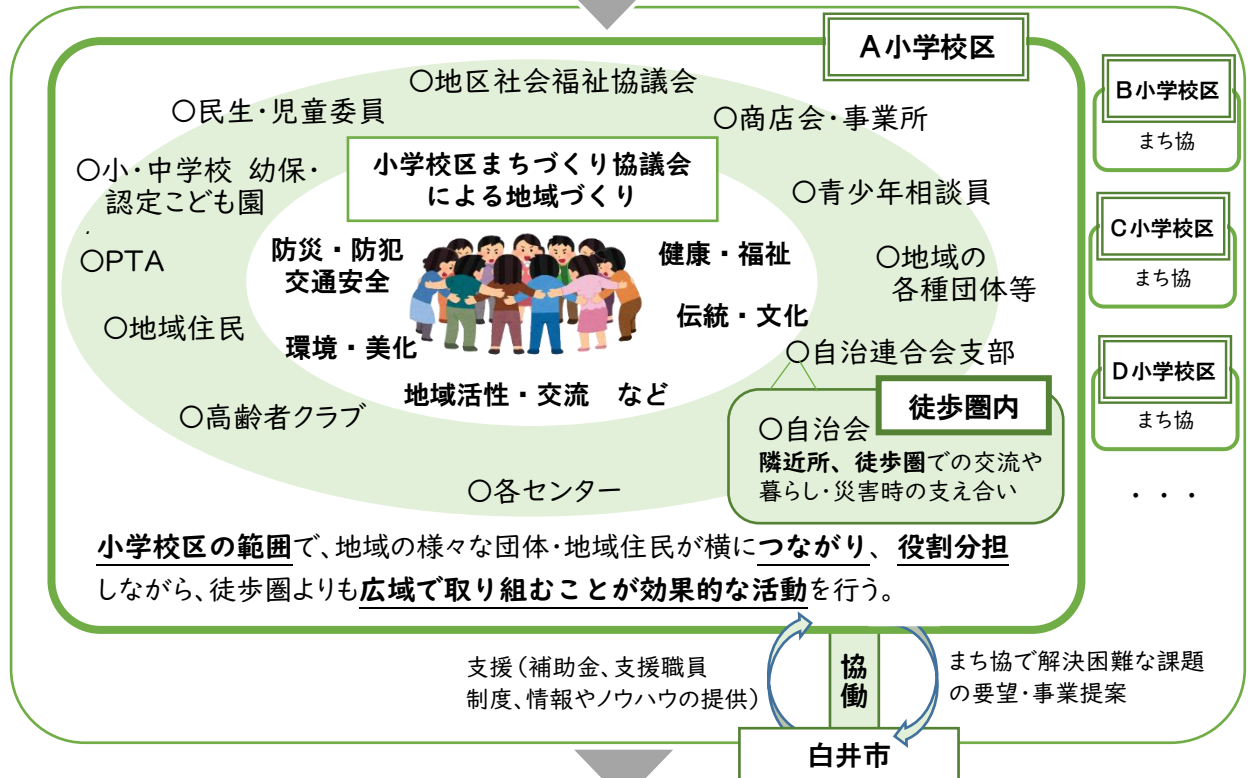
▶自分たちが住む地域の課題は、
まずは市民で解決を目指し、地
域の魅力、安全・安心力を高める。

市民
自治

役割
分担

▶同じエリアを対象とする活動は重
複を防ぎ、広域で力を合わせて取
り組むなど、各団体・組織が協力
しあいながら役割を分担する。

小学校区まちづくり協議会



高齢化が進んでも、働き手が減っても、大きな災害に見舞われても・・・

日頃から協力・連携することで、地域力を高め、安心して住み続けられる地域を実現

小学校区まちづくり協議会の活動・成果

様々な団体の力を合わせて、小学校区単位の交流事業を開催



小学校区でのおまつりなど、小学校区単位の交流事業を開催することにより、地域住民同士が顔を合わせ、多世代が交流する機会となっています。開催にまち協がかかわることで、今までより多くの団体・住民が運営に関わるきっかけづくりになっています。

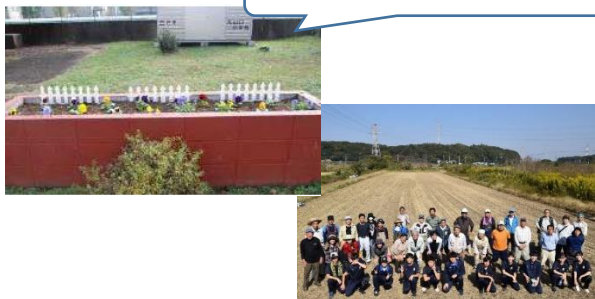
パトロール活動・防犯や交通安全マップの作成

大山口小学校区
あんぜん・あんしんマップ



青色防犯パトロールや子どもの見守り活動、地域からの情報を集めた「あんぜん・あんしんマップ」の作成配布など、地域の防犯・交通安全活動に取り組んでいます。小学校区を範囲とすることで、効率的に防犯・交通安全の効果を高めることができます。

小学校区内の環境整備



小学校の花植え活動、ごみゼロ運動、外来植物の駆除活動など、小学校区内の環境整備を行っています。近隣の住民のみでは対応しきれない環境整備について、力を合わせて取り組むことができます。

災害に備えて防災訓練・避難所開設訓練を実施



まち協が中心となって、定期的に防災訓練や避難所開設訓練を開催しています。実際に災害が起きた場合、この訓練を活かして、円滑な避難、避難所開設運営がなされることが期待できます。

子どもや高齢者への支援・助け合い



子育て世帯や高齢者の孤立防止・地域での助け合いの重要性が増しています。まち協では、子どもや子育て世帯向けの交流事業（未就学児交流会や夕涼み会など）、高齢者等の困りごとへの助け合い活動、認知症見守り訓練、ベンチ設置など、課題の解決に向けて取り組んでいます。

市の支援

【財政的支援】

市からは、地区人口や高齢化の状況に応じて運営のための補助金が交付されます。



【人的支援】

まちづくり支援職員を配置し、会議の運営支援（ホワイトボード記入や助言等）・事業実施のサポート（運営の手伝い）などを行います。